

無関心から一步前へ

住友ゴム工業株式会社 宮崎工場
工務課 第一保全班 谷口 武瑠

18歳で高校を卒業し、私はすぐに社会に出ました。周りの友達が大学へ進学する中、私は「早く働いてお金を稼ぎたい」という思いから就職を選びました。最初の頃は、仕事を覚えることで精いっぱい。毎日が新しいことの連続で、目の前の作業をこなすだけで一日が終わる。そんな生活の中で、「政治」という言葉は遠い世界の話にしか思えませんでした。選挙や国会中継はテレビの向こう側の出来事で、自分の生活とは無関係だと思っていたのです。

しかし、働き始めて数年が経ち、少しずつ余裕ができると、給料から引かれる税金や上がり続ける物価、そして趣味のバイクにかかるガソリン代など、日々の生活に直結する問題に目が向くようになりました。休みの日に遠くまで走るのが楽しみなのに、ガソリン代が高くて距離を縮めたり、乗る回数を減らしたりすることもあります。「なぜこんなに高いのだろう」と疑問に思い、調べてみると、国の政策や世界の出来事が関係していることを知りました。バイクで風を切って走る瞬間は、私にとって自由そのものです。その自由が政治や経済に左右されると気づいたとき、政治が急に身近なものになったのです。

さらに、SNSでも政治家の発言や若者の意見を目にする機会が増えました。以前は政治家を遠い存在だと思っていましたが、スマホを通じて考えを知ることができる今、政治は身近な話題になりつつあります。動画やコメント欄で同世代が意見を交わしている姿を見ると、「自分も考えなければ」と思うようになりました。こうした小さなきっかけが、政治に関心を持つ第一歩になるのだと感じています。

私の周りでは「どうせ何も変わらない」と言う人が多いです。私も以前はそう思っていました。でも、何も言わなければ何も変わらないのは当然です。投票に行かなければ、自分たちの声は届きません。一票は小さいかもしれませんが、集まれば大きな力になります。「一步が集まれば、未来が動く」――私はこの言葉を信じています。

働いてみて初めて、お金の大切さや生活の厳しさを実感しました。生活費を払い、少しずつ貯金をし、趣味に使う。その中で物価や税金が上がれば負担は増え、将来への不安も大きくなります。だからこそ、政治は私たちの未来に直結しているのだと思います。政治は難しい話ばかりではなく、私たちの毎日の暮らしに関係しているのです。例えば、消費税率の引き

上げやガソリン税の仕組みは、直接私たちの財布に影響します。こうした仕組みを知るだけでも、政治が「自分ごと」になるはずです。

私は、若い人がもっと政治を身近に感じられる社会になってほしいと願っています。政治家には難しい言葉だけでなく、分かりやすい言葉で伝えてほしい。SNS などを通じて若者が意見を交わす場が広がれば、関心を持つ人も増えるはずです。学校で学ぶ政治の知識も大切ですが、実際の生活にどう影響するのかを知る機会がもっとあれば、若者の意識は変わると思います。

18 歳のころの私は、政治なんて自分には関係ないと思っていました。でも今は違います。働くようになり、税金を払い、将来を考えるようになって、政治が自分の生活に直結していることを実感しました。まだ詳しくはありませんが、これからも少しずつ関心を持ち続けたいと思います。

私は趣味のバイクから一歩を踏み出しました。あなたの大切な趣味は何ですか？仲間と一緒に、その一歩を踏み出しましょう。小さな一歩が集まれば、大きな力になります。未来は、一人では変えられません。仲間と踏み出すその一歩が、私たちの未来をつくれます。